

上に布巾をしきて、其上にならべて、又上に蒸籠のふちに布巾をねはひて、木蓋をしてむすべし、時間は十分間にてよし、

○包む時、出来るだけ薄くつゝむをよしとす
つねの饅頭の製の種類にして略製をばまんぢうといふ物の拵方なり、其皮へ紅彩色にて日の丸をゑがきて用ふ、これも新年の山の意なるべし

新年歌

新年山 後 子

年たちて御代をことほぐ例には

まづ仰がるゝ高千穂のやま

新年天

いかのほり高くのぼりて大空も

にぎは、しげに年立ちに覺

新年鶴

あられたまの年の光もさしそひて

わざ日にきよしつるの毛衣

新年鶯

世のひとの心は春になりぬとや

年たつ庭にうぐひすのなく

早春梅

春もまたしらすやあらん我宿の

わたくしものゝうめの初花

新年山三首

東 基 吉

新らしき御代の光のてりそひて

のとけき春の満洲の山

兵の血しほそゝぎしわとさえて